

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F116210105329	設置等組織名	情報工学部（データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科）
大学名	富山県立大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	富山県	事業計画名	富山県立大学情報工学部の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和5年4月 情報工学部（データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科）の設置届出	令和5年4月 情報工学部（データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科）の設置届出		
フェーズ1 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	(令和5年度) ・新学部設置に伴う定員増や教員増に対応するための新学部棟（鉄骨造4階建 延床面積3,884㎡）の実施設計を実施し、建設工事（初年度）に着手 ・データサイエンスの教育研究に必要な高規格サーバや大容量通信が可能なネットワーク機器等の整備	・令和6年3月 新学部設置に伴う定員増や教員増に対応するための新学部棟（鉄骨造4階建 延床面積4,044.55㎡）の建設工事（初年度）に着手（計画変更承認日：令和6年3月29日）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 本事業において令和5年度に実施する新学部棟の実施設計及び同年度に購入すべき設備備品の一部について、本事業での実施又は購入を取り止めることとした。当該取り止めによっても、本事業の遂行には支障なく、計画は順調に進捗している。
	令和6年4月 情報工学部（データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科）開設予定（入学定員160人、工学関係）	令和6年4月 情報工学部（データサイエンス学科、情報システム工学科、知能ロボット工学科）開設（入学定員160人、工学関係）		
フェーズ2 後倒し	(令和6年度～7年度) ・新学部棟の建設工事（2年目、3年目）及び教育研究設備等の整備を年次計画に基づき実施	(令和6年度) ・新学部棟の建設工事（2年目）及び教育研究設備等の整備を年次計画に基づき実施 【R7.3月末時点進捗状況】 建築工事41.0％（計画40.0％） 電気設備工事15.0％（同15.0％） 機械設備工事15.5％（同17.0％）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 本事業において事務局に新学部設置計画の遂行に従事する職員を4名配置する計画のところ、情報工学部の入試及び教務に関する業務に専従職員2名を当て、他の業務は工学部の運営に従事する職員が兼務担当することにより、事務局内の人員配置の効率化を図った。本事業の遂行に支障はなく、計画は順調に進捗している。
	(令和6年度～9年度) ・事務局に新学部設置計画の遂行に従事する職員4名を配置 ・新学部の教育の特色等を周知し、広く県内外から学生募集を図るための広報事業を展開 ・新学部における教育研究の質を高めるため、各専門分野の電子書籍や専門誌、雑誌等の蔵書を拡充 ・多様な入学生の確保に向けた高大連携事業や産学交流事業を推進 ・新学部における学修に必要な資質・能力等を的確に評価するための入学者選抜の実施 ・新学部カリキュラムに導入する「デザイン思考」について教員の指導力向上を図るための研修会を実施（令和6年度のみ） ・新学部の教育研究の特色を広く地域や産業界に周知するためのフォーラム等の開催（令和6年度のみ）	(令和6年度) 令和6年4月 事務局に新学部設置計画の遂行に従事する職員2名を配置 令和6年5月 新学部の教育の特色等を周知し、広く県内外から学生募集を図るための広報事業を始動 令和6年8月 新学部における教育研究の質を高めるため、各専門分野の電子書籍や専門誌、雑誌等の蔵書を拡充 令和6年8月 新学部の教育研究の特色を広く地域や産業界に周知するためのフォーラムを開催 令和6年10月 新学部カリキュラムに導入する「デザイン思考」について教員の指導力向上を図るための研修会を開始 令和6年11月 新学部における学修に必要な資質・能力等を的確に判断するための入学者選抜を開始 令和6年随時 多様な入学生の確保に向けた高大連携事業や産学交流事業を推進	R7年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3			R8年度自己評価	リストから選択してください。
			R9年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和5年4月 工学部知能ロボット工学科及び情報システム工学科学生募集停止の報告（入学定員140人、工学関係）	令和5年4月 工学部知能ロボット工学科及び情報システム工学科学生募集停止の報告（入学定員140人、工学関係）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	富山県立大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。			
	確認を受けている			☒ チェック
	確認の対象に該当しない			☐ チェック
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）			
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った			☒ チェック
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。			
	計画通りに進んでいる			☒ チェック
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	令和5年度の外部資金獲得実績は、1件2千万円を超える高額な受託研究事業が減少傾向にある（R3:2件、R4:1件、R5:なし）ことなどが影響し、総額では過去5年間の中央値3年分の平均を下回ったものの、件数は過去最多の376件（H30:300件、R1:336件、R2:354件、R3:355件、R4:372件）と堅調に推移している。R6年度に開設した情報工学科の年次進行に伴い、今後、情報工学分野での産官学連携事業の進展、ひいては受託研究事業等の増加が期待できることから、引き続き、学内シーズの発掘・発信や産業界のニーズ把握・連携強化等に積極的に取り組み、助成期間終了時までの計画達成に努める。		
	計画通りに進んでいる			☐ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	富山県立大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック

□ チェック

□ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
・情報工学部では3学科共通で、情報系企業も多く含む県機電工業会と密接に連携した特別講義をカリキュラムに編成している。当該特別講義では、①富山県内ものづくりに関する産業構造を理解する、②富山県のものづくり産業の最新の研究・技術動向を理解する、③企業が抱える現場の課題を理解する、の3項目を学生の到達目標として設定している。 ・また、情報工学部では「デザイン思考」を必修科目に位置付け、すべての学生は他者との協働による課題発見解決のための方法論を、PBLを通じて学習する。デザイン思考のPBL授業では、学生を5名程度の少人数グループに編成し、各グループに専任教員をファシリテーターとして配置する予定である。 ・さらに、県機電工業会会員企業などから提供される実践的な課題を事例とした実践的デザイン思考のPBL授業を、学外企業（Amaze Design Labo）との連携により実施する計画としている。	・令和5年度には情報工学部のカリキュラム編成を実施し、富山県機電工業会との連携のもと、令和7年度に開講する2学年後期科目として、データサイエンス学科の「データサイエンス特別講義」、情報システム工学科の「企業特別講義」、知能ロボット工学科の「キャリアアップ特別講義」を設定した。同会員企業からものづくりの第一線で活躍している研究者や技術者を講師として招聘して行うオムニバス形式の講義とし、県内の産業構造や最新の研究・技術動向の理解を深めるとともに、各学科の専門分野の視点から企業の現場が抱える課題の発見・解決に取り組むグループワークを実践する計画であり、令和6年度に詳細な授業計画を協議・作成することとした。 ・また、情報工学部各学科の2学年前期科目として令和7年度に開講する「デザイン思考」及び3学年前期科目として令和8年度に開講する「実践デザイン思考」の準備のため、令和5年度には、Amaze Design Labo社との連携により、情報工学部の教員を対象とするデザイン思考指導者研修（6/9～7/21、11/10～12/27）及びデザイン思考ファシリテーター研修（8/28～8/30、3/26～3/28）を実施し、教員の知識と理解の深化及び実践的な指導手法の習得を図った。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック

□ チェック

■ チェック

■ チェック

□ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
「地域の初等中等教育段階の学校との連携」として、県内外の高校に情報工学部各学科の教員が出向き、高校生を対象とした講義を行う「サテライトキャンパス」や、県内高校生が本学キャンパス内で講義や実験などを体験する「科学技術体験講座」を実施するほか、県内高校が取り組む科学探求講座や課題研究などの実施にも協力していく。 「社会人学生の受入れ強化に向けた取組」として、本学地域連携センターと連携し、社会人が仕事に役立つ情報工学の知識を体系的に学べるレディメイド型講座や、企業・団体の要望に応じ、テーマ、開催時期、場所等を設定したカスタムメイド型講座を開講するなど、県内企業に従事する技術者等のリカレント教育やリスキング支援に積極的に取り組む。加えて、DX教育研究センターと連携し、民間企業や地域、行政など幅広い方々が最先端の情報工学分野の研究内容や研究設備に触れられる機会を創出する。	以下の取組みを通じ、多様な入学者の確保に向けた志願者の裾野拡大を図った ・サテライトキャンパス（県内外の高校での出張講義） 39校68講義 ・高校生向け科学技術体験講座（本学施設を活用して本学教員による講義・実習を実施） 8/8大門高校（37名受講）、8/24呉羽高校（22名受講）、12/12富山東高校（29名受講） ・小杉高校「科学探求力アップ講座」（11月～12月）に教員2名を派遣し、指導協力（同高校探求系列理系分野2年生30名を対象） ・高岡高校探求科学科2年生の課題研究に対する助言・指導、講評等の協力 ・レディメイド型講座（知能ロボット、情報システム等4コース、31名受講）、カスタムメイド型講座（ITの将来像、チャットGPT、データサイエンス等をテーマに7件実施）を開講し、県内企業技術者のリカレント教育やリスキング支援を実施 ・本学DX教育研究センターと連携し、社会人や高校生を対象としたオープンハウスイベントを2日間にわたり開催し、研究成果の発表、DXやデータサイエンスの最新動向をテーマとした講座等を実施（延べ242名参加） ・県内企業や行政機関を対象に、プログラミング初学者向けのPython講座や機械学習・深層学習講座等を開催（5講座開講（各2～4回）、延べ40名受講）	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	富山県立大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。		
	確認を受けている	☒ チェック	
	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）		
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	令和6年度の外部資金獲得実績は、501,129千円と申請時点の平均496,713千円を上回ったが、本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準までには及ばなかった。しかし、R6の件数は過去最多の393件（H30:300件、R1:336件、R2:354件、R3:355件、R4:372件、R5:376件）と堅調に推移している。R6年度に開設した情報工学科の年次進行に伴い、今後、情報工学分野での産官学連携事業の進展、ひいては受託研究事業等の増加が期待できることから、引き続き、学内シーズの発掘・発信や産業界のニーズ把握・連携強化等に積極的に取り組み、助成期間終了時までの計画達成に努める。	
	計画通りに進んでいる	☐ チェック	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	富山県立大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
・情報工学部では3学科共通で、情報系企業も多く含む県機電工業会と密接に連携した特別講義をカリキュラムに編成している。当該特別講義では、①富山県内ものづくりに関する産業構造を理解する、②富山県のものづくり産業の最新の研究・技術動向を理解する、③企業が抱える現場の課題を理解する、の3項目を学生の到達目標として設定している。 ・また、情報工学部では「デザイン思考」を必修科目に位置付け、すべての学生は他者との協働による課題発見解決のための方法論を、PBLを通じて学習する。デザイン思考のPBL授業では、学生を5名程度の少人数グループに編成し、各グループに専任教員をファシリテーターとして配置する予定である。 ・さらに、県機電工業会会員企業などから提供される実践的な課題を事例とした実践的デザイン思考のPBL授業を、学外企業（Amaze Design Labo）との連携により実施する計画としている。	・情報工学部では富山県機電工業会との連携のもと、令和7年度に開講する2学年後期科目として、データサイエンス学科の「データサイエンス特別講義」、情報システム工学科の「企業特別講義」、知能ロボット工学科の「キャリアアップ特別講義」を予定している。同会員企業からもものづくりの第一線で活躍している研究者や技術者を講師として招聘して行うオムニバス形式の講義とし、県内の産業構造や最新の研究・技術動向の理解を深めるとともに、各学科の専門分野の視点から企業の現場が抱える課題の発見・解決に取り組むグループワークを実践する計画となっており、令和6年度にはその詳細な授業計画（シラバス）の作成・公表を行った。 ・また、情報工学部各学科の2学年前期科目として令和7年度に開講する「デザイン思考」及び3学年前期科目として令和8年度に開講する「実践デザイン思考」の準備のため、令和6年度には情報工学部の教員を対象としたデザイン思考指導者研修を学外企業（Amaze Design Labo）へ業務委託により実施（研修会を計7回開催）し、教員の知識と理解の深化及び実践的な指導手法の習得を図った。□	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
「地域の初等中等教育段階の学校との連携」として、県内外の高校に情報工学部各学科の教員が出向き、高校生を対象とした講義を行う「サテライトキャンパス」や、県内高校生が本学キャンパス内で講義や実験などを体験する「科学技術体験講座」を実施するほか、県内高校が取り組む科学探求講座や課題研究などの実施にも協力していく。 「社会人学生の受入れ強化に向けた取組」として、本学地域連携センターと連携し、社会人が仕事に役立つ情報工学の知識を体系的に学べるレディメイド型講座や、企業・団体の要望に応じ、テーマ、開催時期、場所等を設定したカスタムメイド型講座を開講するなど、県内企業に従事する技術者等のリカレント教育やリスキング支援に積極的に取り組む。加えて、DX教育研究センターと連携し、民間企業や地域、行政など幅広い方々が最先端の情報工学分野の研究内容や研究設備に触れられる機会を創出する。	以下の取組みを通じ、多様な入学者の確保に向けた志願者の裾野拡大を図った。 ・県内外の高校での出張講義 33校55講義 ・高校生向け科学技術体験講座（本学施設を活用して本学教員による講義・実習を実施） 8/6大門高校（38名受講）、8/23呉羽高校（42名受講）、12/9富山東高校（34名受講）、12/11富山いずみ高校（27名受講） ・小杉高校「科学探求力アップ講座」（11月～12月）に教員2名を派遣し、指導協力（同高校探求系列理系分野2年生40名を対象） ・高岡高校探求科学科2年生の課題研究に対する助言・指導、講評等の協力（教員2名派遣） ・レディメイド型講座（バイオ、電気電子、情報システム工学の3コース、19名受講）、カスタムメイド型講座（デザイン思考、データサイエンスリテラシー、機械設備のIoT/DX等をテーマに8件実施、221名受講）を開講し、県内企業技術者のリカレント教育やリスキング支援を実施 ・本学DX教育研究センターと連携し、産学連携によるビジネス機会の創出を目指して、企業や自治体を対象としたオープンハウスイベントを開催し、研究成果の発表、ポスターセッション等を実施（延べ81名参加） ・県内企業や行政機関を対象に、土木・建設業界向けの衛星データ活用講座や製造業向けのIoT開発講座等を開催（4講座開講（各2～4回）、延べ38名受講）	

大学名	富山県立大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	495	515	515																
		入学者数	人	510	550	540																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	495	515	515																
		入学者数(B)	人	510	550	540																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.07	1.05																
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,910	1,965	2,020																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	1,990	2,070	2,130																
		編入学者数	人	1	2	2																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	1.05	1.05																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定	開設			完成年度									
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		413,818	502,887	502,488	516,134	484,765	455,261	501,129												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	496,713
本事業による助成金の額(F)	千円	2,028,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	547,413

特記事項

「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」及び「3.大学（学士課程）の状況」表中、「収容定員等」について、令和5年度及び令和6年度の「編入学定員 0人」とは、工学部の編入学定員が「若干名」であることを意味している。
